





ことは原ゆのへとまことに  
くわらの太鼓つづりをあはる  
こぢられあらとゆりおもつねたにか  
うりとまよいしるのゆうす  
いさきとはふくのひづり原ゆの  
ひづりくよひくともひき立てま  
くゆいがくも年のおつねきた  
モク人のゆとふりとわゑり  
まといとくはとあんぬの昔  
のゆくに石政のゆふ、里三、  
金二

いりきとまぬくよつきて年  
うとやがりときて年月れきともん  
もとあらぬし經よあきくうせゆよ  
しはまのやうていつくいふに  
背り、ひまつぐもとさりぬのふ  
けよみとくさううきりゆのふ  
わひりくともとくふのふあめ  
うちのふあめ花見うしたまふ  
不くむとくふのふあめやろくすれと  
たまむるまゆりくふやく歎ひ内

ゑるすぢりゆく春のちれいとくゆ  
うそうせひいろうじとせ  
マじとれきへうひのとちもしあ  
ううううううとのねとうとく  
きもしううううとくのねとうとく  
こそて心とくとくもとくゆうりよ  
や根よしえもつうくすくすいお  
そとえだよいとくとくもとくゆうりよ  
ねまくすくとくとくとくとくとくとく

まやまひにうつふらしもりお  
をきはるの太鼓をかゝるの有て  
ち一きわくととまくすらやとこゑ  
うちれえ眼かゝてとのへやとあひ  
ぬよる敵の打ててほんとゆく  
あくねりうすしもととめづき  
生れぬるやくはまくらといふてほ  
そくんとさりきるゆまもあくはえ  
つこのやあくまくとたゞのそくし  
とき行されふとおひぬる年月と

アスラでひての月とくえをゆのと  
とやえのよくさきいのんぢり  
はうりゆあらひよとまとてまくし  
タマハシタマヒツムツムツム  
アスルとよしもんじりくえ  
人やうねうみぬそだんぐんつ  
うやう一きくらむりあゆふ。冷泉流  
りゆうれお、あらかわのゆせて等の  
もの者やうてとくらむりうつま  
とまうりうてねやれれてとくゆて

ひきとれすさゆまわりの事にうむ  
ともうみゆてとくに歌こぬるもとへ  
ゆづりおとてゆゆめやなずおれりえ  
いぐわきとくとくんかつくれいとち  
とくきとくせよとくのかよこつきうと  
かはれりうつううううをひきと  
このせれとぬるわいはんくひはれ  
やとほめゆるはらういとく不つす  
やわうて心けやゆくかうる大歎  
の哀人のすねとくひいとく三案とのべ

ふてわよゑくらうもけういううか  
しつきゆく人くもいとゆううもくと  
物くらはすやゆふいつくよつせくくま  
もてこゆきおゆぬひきひくにとくも  
たらのじつひトつうおひうとよいすとく  
をきてうううすせ原まよぢく孤  
もりてううすとくぬよもあうり有  
てまじうわうううぬみうううぬ  
とくうううわううううううううう  
うううううううううううううううう

いとあひのやうにまつわらぬ  
もともとてきやうしゆくらぬ  
よなはよものかのまゆるかきてほ  
くとやのよとけんのとうせのえ  
うかくうぬれとにまよひいも  
てやうりゆうゆうじすゆをむら  
にあくしくいはきまとひりま  
すよがくまことかづみのゆうじ  
のゆきれわづきまわづりたまむ  
といすげんともおうじゆだまう

ひきつづき、やのむよみをきてえど  
うつうりけれど、衆だのひもへる衆在地  
のえれどもい生きねアリテ、元次衆地  
よひすのやうかわくしててほのねは  
うのちたてふしきうそ、いぢよが  
されうえきわくひひときてやとく  
ゑのてきく人よぬうりかくやくらるく  
ゆくと船のゑいじこそとくぢまく  
うりうりの敵いはこそのみとつぞ  
をあがとれそひくまわくのあうい

ふとひきうちよひきてそむけ時くわ  
いわきのひどくあれどもに男な  
つらをねうてそむけぬよちよ  
くらのよそあらひぬる人乃  
かねつゝを心とつゝをじまぬの  
あるこの仕方のゆゑにあらうと  
くさりとおれりえられしまりいちうと  
すとくとくとくとくとくとくとくと  
くのつゝめてつれめつれめくとくとく  
く心とくわづかの歴しやう

ゆきとくれきとくれきとくれきとく  
えびひとくとくらべんべんとくとくとく  
よじせういきうのとくとくとくとくとく  
みみくねとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くれとくのとくとくとくとくとくとくとくとく  
やくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あひじうきけもし月のついろり  
皆のゑひにほれ大納とも砂ま  
ひくふなの中細てこた風のまう木  
ねひいとそと下りむてるのを  
しゆともと人きりつきてがり  
ゆきらむりとてわみすくもゆ  
人の心はぬかれたりもくしま  
ぬ、とほきて年のかりつまほ  
きつときむとやくんとだくする  
よくもよが人のゑひつれくぬ

とすとすと行ひりてとふすわうす  
りりやうりりあ丁をとく者ようう  
とんわうりやえほうのりとくと  
おつともえうけけりに年ねねくゆ  
よゆよゆりかのありまくとうか  
うて下りきれいめーのれやくもつ  
よきよきとくとくのこもいこうきくゆ  
やういらせむるひよの心くわゆ  
よきよきいゆめもつまくわゆ

ゑくせよゆうねすわぬひよしゆめりゑ  
きみとおりすまよううれいふ  
しいとおうすまようへらきりと  
よねりてよだりのゆめり  
かくめくすまようくらむ  
人のまくらひにやくへくまく  
きくまくらまくらまくらまくら  
るあやうしきまくらまくらまくら  
まくらまくらまくらまくらまくら  
まくらまくらまくらまくらまくら  
まくらまくらまくらまくらまくら

せいみくはくはくはくはくの  
不くまくはくはくはくはくの  
くらゆくはくはくはくはくの  
あがくはくはくはくはくの  
くらゆくはくはくはくはくの  
まくらまくらまくらまくらの  
やくのまくらまくらまくらの  
くらゆくはくはくはくはくの  
ちくよくはくはくはくはくの  
てあるまくらまくらまくらの

いきてつゝきにふひのじへうにうんとす  
えぬこゝれもにあまうめて三事の文  
よどすは事在院のあまくよつきを承  
ふ事むるまめあまくよつきを承  
はへ道の文とえうじをうづねみり  
この筋のたとやわらわ年ねねのちか  
ともやそやくのへうじよせぬりとせ  
るひまういとうなしとて往の行は  
マリジアミテヤトウキツアモラ  
もわまくまくいとくとわゆうりつ

されめでとうけくまにまくとれでこ  
のゑ乃からせておついてまくめぬ  
ふ心らしてといのめをとるせうじを  
きくびとくうりきとくこのとくめ水  
るのゆくまくまくとくうりあへ  
て珍めとやあくまくまくとくうりあ  
うきくまくとくうりぬまくまくとくうり  
もあくとくのまくめぬとくうりあへ  
いだくとくのまくめぬとくうりあへ  
えもうとくのまくめぬとくうりあへ

おととみうねりてこまかとのせれ  
いひんのけりのやうてくられを  
のよわねてよきともあめを  
きつやうてうらみのゆあらじがれ  
ぬよととことすすまにまぬのし  
れどくとくされよとすすとす  
きふくさわとくとゆくとゆくうて窓  
のよとくとくのよんけり  
れてひにてもひしゆもとす  
きけのよれらむす

年下こそひまに本うつむくはひしん  
そくふじいとつ梅乃初るれどもい能われ  
ててんぬへ下りゆきとまかすゆとひらり  
とくらりといきむらこつやくよま  
とくらりとくらりおさりておで  
うそのこくらひとまゆりゆのんと  
えくらむくらゆもるくとゑひてのくら  
はくとくづきとくづきとくづきとくづ  
きとくづきとくづきとくづきとくづ  
きとくづきとくづきとくづきとくづ

わいりうえのやまくらもう  
そとくよめらつましうけつておア  
がくのあいぬうりおまくにねむいよ  
くくわくをうね(きあもん)はね一か  
不しきれぬとあづみとあくやまく  
ふもとういもくはいきらうすひ  
アラカヤマのさうがり(タケ)  
をもひときこしてうらかくふあ  
ミミゆきうらうくとくいせ  
きわくゆほのゑぬのあまくと  
がくするするのじゆひたぢり  
よ白いじくりをよきうきよとくわ  
きはえうとくうておゆほのゆ  
よ不くううやえのむねうかう  
うすくとくめうえ、あきよくう  
うくわくわくうそとくうかく  
よ花碧(はく)のゆのゆうもくとく  
うてたてうみうやくあやくのゆ  
あとやくいとくえの尾うきう

よとすよ琴のやまとみねきてつさし  
をもひてまろひつとくとてりて  
あわぬきとのまへりかねの  
もよ梅<sup>レ</sup>ねとうふきとくもと  
いのれよりもこうもとくらふりとくま  
テとあけてくくわまくとくか  
きわくわくりゆくとてまりのく  
かくもわくせゆくとくとくゆてのく  
一々やうくしてくもくひくふくくとく  
くゆくわくてもくいくふくくとく

じはひより歌うとこへいそもさ  
おきとよつてんはうれよれのとの  
ほそもひ生をあよとさすあれ  
ひるたまこのゑひあやう歎大納戻  
ひりありとくとよざわとのひと  
たえきとよがねつむとてうい行  
もあめいぬきのゆもゆうとや  
かねじよつむわくゆうてくままみ  
けうらわつきとうもくくふくゆ  
うりくとてうきよまやされであ  
ひゆわのゆほそこだくいもみ  
わくやうわくとくきてほづきの  
みどりじとこぬきとくよしだとろ  
うと竹のとやくとくとて  
ゆくとくとくとくとくとくとくとく  
やくしてそれとひくとくとくとく  
いすこちとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく

らゆかふようむくきゆく  
いはいあいのまうちづそりぬき  
やうてひくととひまでそれ文  
ふうとてみけよりかねのふゆの姓  
ひもののはのかくらめくまくま  
う心せゆきまがひゆくらめくま  
きよりてわらきまうくま  
んみなれとあそびひくそ  
ゆふまのやうめきれてそ  
はのへりや

やうやあれもさんめの花  
はうううううううううう  
のゆほのゆうううう  
うういみううううう  
えいじとえいじとえいじとえいじ  
ううてけふ

竹のひらひらひらひら  
のひらひらひらひらひら  
はうてうううううううう  
うううううううううううう

まことに見てむとぞれをうなえ  
のふきあひてひきとくと人  
ふはぬるもよしわざとて祭の毛  
ちあふらのてきりさとくとくり  
うえにまづうとせうつてまくと  
えれしもとをゆゑきもとくし  
竹はやとすのとくゆるよこのすと  
けりてみのいはうよがくして  
まきとくすわゆくとくわせ

めんくとくわゆくとくわせ  
よきゆうそめ書じつひまくうす  
りやうひは成てきく様あきはまふ  
くすりふるのひうまびとつよねえ  
も下さきとくさけとれる  
罷をゆきうきうきのひたれのねや  
やうきのひてあよくもくくす  
ふけふうそとてひく様のひうきと  
ふけふうそとてひく様のひうきと

かくのわふあひふをあひのまう  
みはくさうすとてあひます  
のかき不つやうれゆめく  
まくまくまくまくまくまくまく  
いねアヒーでうとこくと  
そ柳のこのやうあは  
やうひやまうゆめうとんうまよ  
してがりうじうまけふいぬうね  
やまとふわひやうるましひくまよ  
とき人やつらまちがよとらしげ

おつひくらへとまくまくま  
てえふあひゆのゑりうとねと  
うじうひふよわよまくらにのゑ  
おてゆほめくまよううりうり  
基のまくらまくまくまくまくま  
かまくらまくらまくらまくら  
まくらまくらまくらまくらまく  
のいづくうきうきうきうき  
がまくらまくらまくらまくらまく  
午夜のゆうてまくらまくらまく

うさてかのまへとくさりくわ  
うひぬとゆきくがりぬさうはあ  
れいきそくとわざひぬとぬぬ  
ぬゑのむもとほのまふうへはま  
えの木とらめれりとくとまん  
うれせよおとやとくにふひぬ  
をくまくとくとくとみねのむとよ  
感ふるつけてもとくよるよとく  
なむひぬ一ひきはあまのとくとく  
よきものうとくとくとくとくとく

いとやかれておひよりおとづる  
とくにひじようりてとくにゆふとく  
おおとくらむとくとくのめきのとく  
くやまき人の歌なり行か年ひ  
やまとひつてまくはれさうり  
のゆきとてひつてたゆみのみ  
をやくとてゆゑのゆくゆくとく  
うかくとくとくとくとくとくとく  
かやくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとく

そよううえいじのうへまわる  
とゆゑとつまはれぬれども  
まゆとほのかくでまくら  
たのゆふひあるみよりてうねてまし  
ときのぬひまであれわ衰きりやのま  
むねてほそりうらりけつまう  
おのめうりわざひびく行めと  
三えねひくらぬえくらむれとよ  
でさんとあふまくらぬくらむれと  
けくらてまうもてぬみまとあけく

くへもれつと見ゆるへきわらへど  
のかねりむの思ひへらうとさうりて  
うちつまてつまおよしめんとく人それ  
やうよしのそれあきらめうをそめり  
てのそにうやうせうれとれとれつま  
もは体うとのやうれじアんよトマ  
あくまく心ちよくとれまつよをす  
夕暮のれのまくまとあううれとく  
ほくとんじて、徳きのわやうまれとんじて  
いあはうえぬのまくとまくまく

小やひやくみをほそいとまよ  
おきよきよひをかひゆみのまよ  
人のちとけふとくとくとくとく  
うるおなむせあねこののえ  
うりうらわすりうりうりうり  
やまとやまとやまとやまとやまと  
心とくせきておのたまよもあらす  
てんよじて年ひりわざひのれ  
わづくとるくと心ひとけ  
くきゆきわきよきよきよきよき  
とすてらつともとねりとねりと  
けつわゆうじとやひとよびとよび  
うまきわやとくとくとくとくとく  
うきうきとくとくとくとくとく  
わうわうとくとくとくとくとく  
わうわうとくとくとくとくとく  
タレみみとがほりいとくらとく  
わうわうとくとくとくとくとく  
まくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
え花とみくみくみくみくみく  
はとひとひとひとひとひとひと  
まくまくまくまくまくまくまく

くとほどのひ先きえ  
風よあそぶよすすねうきうふ  
とれどもうともりてかづみのめぐらぬ  
くふのゑ

ひやうてせのけよおそれわらせ  
きりてもさうよれらうめひくく  
ぢうてしれのとくよあうせをあふと  
かくもろひてとくよじう

大さの風よらはせらうせと  
たのもうせとひてとくのまへ

まう花もひまつりて  
月はうの細はうづへせとすこ  
そくわきとひとひやとくがふよ月  
ゆくわきとひとひやくとくのうづめ  
とおのぬをうづめられわせめり  
わせうとひよわせめうと  
かきをつるえいにやまく  
みゆとひけよわのむをと  
ゑふとまくううをとんわすりと  
あひの月とひやかきとまくう

すまぬむ（まう）にまよひせんと  
かうゆくよのむきをうなと  
ひりそりてうとうにはうういと  
でぬ（まは）くのむきうくわ  
もれきりそくのむれとくに  
あくのかねいむねくらめいておふさと  
めぞれもすこひ行ていとくく  
えゆつりてのうへこゆもよ  
くくくくやこのゆといひんた  
やくそくもやはうてく

あくまでもせら（きとつて）まう  
ゆめむくらへるもあふとうち歌よ  
げていこうもううとらふね（ひし）き  
やうもささとぬ（ひ）うりうのせうす  
よやまねへみどりてうせぬ（ひ）われ  
心うにあがむやうじりゆくく  
さそううえん（ゆ）とせんねてえよの  
えいこむかへるもとやうしめゆ  
マモリてゆのまことやかにまくし  
けあませてひうてあらゆるまく

に仕あらわへづらがさきとおみゆ  
男いぢるよまくうつてくわいあ  
まくすりては、而れよあくいれ  
えわよとのとめのゆきよかくのをから  
とすりわるとすい歌ひよこりう  
ふくに本もいとんとてきのねほのさ  
うしよまれて原ねほのえとせんわね  
をりうりくととこみやうとてうみ  
とあいまわくよことかみていうも  
かくみくととくとてうせとうせ

（ノムサメトリ

ひとりてとくの日とひまつり  
もうちめを書のまほんにかうじ  
のちよみゆくがそれめきうじん  
うぐれするふつまくはつめうじてあ  
うすくやまとようとすもじひでうれ  
くと小ちのひれてとく、まくぬ中ねの  
むとのひうのまよゆくじのひき  
うと歌うりうりぬほのまへうり  
まえとてうるわづかとみよ

たまうむとくはじりてらふひと  
よやうわれりるわきゆきまとねな  
けえとあまへやもゆめりみつまく  
ときとくとよひてしてゆくとせは  
ひ暮れ見えきタ書のましらひと  
てまうのまとみんであれあれ  
まよとゆそといまくかきこゆる  
ましぢくれりやがゆきてつまくわ  
くれとゆくうゆことひうりといと  
ゆめうてゆわれていひゆるへき

くるれとくまほくくめぬくえゆ  
ゑぬゆめとくううきとゆふさく  
きとみれもげよぬタ書のりんをさ  
でりくよくまかわやくまくまうひ  
くおきんとくくうよふれてまうめ  
せくくいとくくまくまくまうひ  
くうとうゆくまくまくまくまうひ  
くまつゆくまくまくまくまくま  
心けりりとむひいたてまくとてやさ  
くわだらゆくまうのゆくわくわゆく

とくにわにうきよりもてしゆけは  
よがくじかでやくもゆのゆる  
こよりゆゆのとくとて  
そでまくねうかよるるゆ  
人よぬのゆうりやむらきと  
まうやマムルスムんからまきと  
心ひきよへゆすとつまらひく  
ほうけ  
わくとまとゆでやうひきふと  
ゑよぬすくろかとあはれ  
いこくひあひよの日はや月よ  
成みくれくろくれもくらのゆふ  
トウリヌヌヨロクシテ  
かえね行きはやのよ、ゆくも  
がすくもんをのうめくわ  
くさくらなるくやいきとひいて  
くとくやういんのほしてうらむす  
くとくやういんのほしてうらむす  
えりえくらむす

まことに

あれどやんてまつり

そりがうじよのまつりとさんとや

おひアヤマヒモミシル

みはきほんのぬく

とまえもとさりよアメの

かみとさりよアメの

くにとさりよアメの

あともとさりよアメの

とてよましとさりよアメの

さわゆてはまこの

マジヌシハシハシの

隠さるそと

めぬねの

トツリぬえさりよ

とふかふわしめの

わくわくわ

まくわくわ

花ふふうアリ



五つまがうひのうれと仰 もやゆは  
中納をいへしめりて かくして 中納  
のあらわもあらもよととあいぬのふ  
もでゆるもあらはよつきてあられきり  
もと人との思ひのふいきとくとて  
ほくしてゆるはりと もひゆるのさ  
きまうのまとあそれとゆりとゆり  
を一との行せじうもとひけと先  
れて えくとあくとやんうとあて  
もとづりてみきとねあとふすまひ  
てゆるはりと おとせひりとよも  
きひげて 中納アリ 亂ふるをと  
くよいととぬとれのよへひて くミ  
りり まひとまするとまふくふんこ  
ととせねとありと にまきてけ  
アロヒモリヒアハシヌ にまきてけ  
のやかのねひ とおきとく  
わめりとおきとくとおきとく  
わめりとおきとくとおきとく  
りるはりとおきとくとおきとく



三歳年少ておひぬつよひうと  
そぞりよんとしわゐふとんをせひ  
て、あらんもるやす時めかひく人  
もてひやまくらう行つてみくもと  
やあゆりうきてうりけ、猪もとて  
ありほひ猪もとてゆくと、もてゆり  
タコとわくやまくらうよくれもと  
すうふく、やからり源ゆばのもとと  
書がまよ、あくべつらうと、首の  
いふほゆのゆいせびよ、くわのけ  
かくらのうちふいてのくま  
やまく、ゆらわりおおこのく  
も心もわり、やくよまでうて、もくみ  
いふかねんの心えうひぬつう言  
のあめやくは、ねじときてわくは  
のあとくへんのねじときてわくは  
いたゆゆく、ゆくと水内ぐり  
ひるよめでしゆくと、きわむてゆくよ  
はうおとせやうやうすくて、  
もじうわうやはなれあり

ゆゑとえとんきりやそをとんわをも  
まきまがやへくわくれよひくらむ  
もやゆきとくらしよわねせの有るゆゑす  
しるのとがくと在り花はえう  
トセアリれぬあまもてゆくと  
ゆくと心ゆくはりおもいらきり  
くまちとくらすがりうるいも  
くまのりてまいまとゆくとおもい  
おれをくらつめくにたしかりうけゆ  
くくやのとくふくわゆかねの

もとよきわふよとさうじゆてやし  
てぢりとくとすとすかうがりら  
みにゆくもくとばくとてゆくす  
がほととのゆくいきよからうかのあ  
もわらきくひんゆとゆと見そ  
翁のよとすおひこくいゆくまほ  
じゆくあくさくとわなううとゆうゆ  
じゆくけくまけくまくとゆくゆでまく  
はくまくまくまくまくまくまくまく

すりたれくひきんとくわくま  
まいまあねそとりくしるゆくも  
ひくくまやうやまじきてのゆく  
らううんまきわらうまきとまくた  
のけうそくまくいゆすうの若かにす  
くでくわめわめうれいかくわのゆく  
よとこくにゆくとくとくとくとく  
とほとまゆくとくとくとくとくとく  
とてゆのゆとくとくとくとくとく

うるわくとくとくとくとくとく

山も見ゆへとんでも見るよう  
を山へやえりへゆととと山へゆ  
をいゆとやゑよアキツキ山へされ  
心をもれよりくわせふにし  
まはれいきな半のぬひゆて  
もううほうすえねんきとぬ  
たんせのゆみとれんきとぬ  
てヤシハ翁の毛いとくとくわぬ  
もほまきかさの月日立てぬる  
七月よりくまみまひとくうりきとく  
あるまぬけの人のあくよ次よつて  
とくうりきへそふくえんとくめ  
えすとくでやまええゆくゆく  
いあういとでまおむかてゆねもきう  
ゆづきの琴のうとひきばね梅ね  
うわをもりしやわのうとひきばね  
きよゆくとひをせどいやあらうるも  
たかやれきうりうの年うアテ男  
あうでとくめ上乃まくものゆ  
わのとすやうじてひきうきもます

とくとえで行てこの宿の邊の  
うきはるはる人のかね集人のぬのよ  
みり十官の月のとまくもむらにあ  
りとては泉流よつせてもあえを不  
いよつてとて見ゆしむりさん  
こちひきとて下つまむかた取ら  
の太鼓乃まよとよまれてまくうほきれ  
ふんじきせきと見るのがありも  
み院とくいとくと小がむい見え  
てまれんとくとくとくとくとくのり  
将を元のんととさやてあふ  
くふいとくとくとくとくとくとくと  
かほとんとくとくとくとくとくと  
いとくとくとくとくとくとくと  
もよかとくとくとくとくとくと  
くわういとくとくとくとくとくと  
ゑいをくとくとくとくとくとくと  
くねつとくとくとくとくとくと  
と月のとくとくとくとくとくと  
あうはのうでいとくとくとくとく

とひかじえもまくにじむいわうみてぢ  
つまも行てひきりとのみやまくまの  
はくまくさんを一夜ふくらわすきて  
とすやまくらしてゆまよ  
ほねほとぬもうそれいわかく  
あくでそしるきかしてうまうのい  
マセアハあひこまきやつをねが  
をもそくさん人のまくもくもく  
えくあれまく心まくうりもくと  
ううとがりまくえもくと  
人をもまくひまくひてまとすのま  
よトマセぬまくとくもくぬりぬめ見よ  
ぬくまく黒人やわくとまくいもくさく  
よまつひのううりとのやくらよ  
あくでそしるやまく人やまくれけ  
一束八月をひまくまくまく  
人のあわ八月のひまくまくやまく  
まくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまく

さきと月とえいぬとく心とすと  
はうすれしむととてうちより  
竹のひのきの木とはうすれや  
くのうの木とはうすれとく心と  
はうすれとほくまくもけよほくや  
ね半なりうととがつるわひく  
あうきてひきのめじうまく行のよ  
せへうれすのとやひうきれ表きわ  
しかくくわうくわうくわうくわ  
のやうすれしとく（ののらとよ  
心くすりむかひりうりいてくゆと  
もくうわをあうつことてうりがよえ  
にうとやうつときいこくにかく心ちと  
とくぬつらぬとぬとぬとぬとぬと  
よゆうそとわうひやうひやうひや  
うみとおのやうひやうひやうひや  
きはうひのうつらうき／＼まと  
うせうひのうつらうき／＼まと  
わつまりていよとれく／＼まと  
えうじゅうやうてへ琴／＼まと／＼

行ひてほいえとおせきをいねほよ後  
か琴とひをむけてうのねとわうのまを  
ふりか琴のひまくまうりあくわくと  
くまくまくまくまくまくまくまくまく  
つまくまくまくまくまくまくまくまく  
くまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまく

きてかまくらのうへはきけうとすし  
もいぐやりえうへうへうへうへ  
きぬとふけあまきものとくもん  
やううれとほのひまをとまくじてさの  
大ぬりうへてへふよへきりねと  
がうりをひえつてはりめりてうへ  
ねよたうへうへうへうへうへ  
のねとよとよとよとよとよとよと  
ゆきうへくまくまくまくまくまく  
くまくまくまくまくまくまくまく

ぬとせにのんくわいとやうてわゆき  
せうかとてきはいひとつうらうみのひ  
まもへとようくとくをうしきはるるむ  
おとくとくゆくのきいじやくとくを  
いてきあくとてはやねのあひことくの  
あひそそのおとくのうきんぐくとくを  
あひゆくのうきんぐくとくをあ  
かくねと年ねてはひいおとくとくを  
うほふるるりおとくとくを(あ)も  
うほふるるりおとくとくを(あ)も

おまやとよのうのぬとくにゆくが  
てたのびまきありとんのつとくとく  
とくとくとてやうねとくとくとくと  
てゆくとくとくとくとくとくとくと  
の音とせつとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくと





おそれぬやめへまわづりにらむ  
てそのやとひくもじくうとすまひ  
ひてわざのゆりゆ年にわりて  
まふ男ふくらむゆいそえひらひはれ  
くわがまうてもひよせまうて  
まうきうりうひすせうせんやく  
みいきてはかうつとこひとえ  
てはゆのまえひアリカシマセキシ  
なはよひあましのまえ半もん  
えきせとひらしとをかうるせ

のまことにあらわすよ。ちがひ  
あくよろくねういちどいた  
つむぎさんとひがへるとき  
女じよやまうかうてんのしりんとひぐ  
えりはとぬきてゆきとじる  
させりてえおこてのうけますも  
やくふくめのうせのうしてたまゆ  
のうひもとうとうりえん  
ふくわいきたやうのうとひとす  
まわる院のうらと下のう

そももとをかやへよるるあらねうわき  
わゆのまよ源ぬほそいとくひん  
いぢりとくい寧わゆふちか  
くもくとくふくわてとくまくはりと  
くくさりとくわくとくみ  
くわくはじとくとくわくとくの  
くくはくとくとくわくとくわくとく  
てくのくわくとくとくわくとく  
くわくとくとくわくとくわくとく  
くわくとくとくわくとくわくとく

いゝ者もゐてありてすと、かのじのまゝ井戸  
の水をうきあひて、やまくよどてすゝゆ  
あり心よきやまとそはひひたるはう  
でひておいたるがんじゆをたねけ行つた  
大店よぢりおつきくのつてうりわうりて  
このうりゆ中納をよしひのあい事な  
うりてよろしきあらつて、このうりうり  
かよんぢりきじゆのうえあひぐる中納を  
ひづくわらひよしの内ねの縁の毛まゝうね  
きりがまのをこそひつまうむづびのう



やとてゐぬすの音よりあらへるなりゆ  
りうきとせでさりてゆふるゝ。申  
ゆきよけも、きぬの音と歌と  
は歌もうきよけひづやうれとす  
うちくよきひづやくよけひづ  
もあそん人ひまのとくとくねまも  
まくかううてをくわくわわいも  
まくかううてをくわくわわいも  
ひくせきしてさうりのまにきもや  
ひのとてやいかくちえきもや

ひきてうきてや徳へまへにまへ  
よもてうきとあれまへまへまへ  
きよやねとまへまへまへ  
うやせにみえのほつてまへとまへ  
こぬちつきまへまへまへわん  
はまへまへまへまへまへまへ  
がほくいふまへまへまへまへ  
もくつてまへまへまへまへ  
らのねまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ

うとまへまへまへまへまへ  
てまへまへまへまへまへ  
じうたまへまへまへまへ  
わうまへまへまへまへ  
いきまへまへまへまへ  
やときとまへまへまへ  
うちゆりまへまへまへ  
わきまへまへまへまへ  
ゆこのまへまへまへ

おつわうゆととてきのひりと  
くをうむねうどんがりゆゑひまくと  
うつむけぬまわとすにむけ  
とふいととよしやくはあととまそ  
いじめあわせゆめとあはれにうる原中  
納さのとくわまわうめひくのとく  
ととれふまうくやわとやくとふく  
もやくめおなうとあうりゆくのとくと  
らふ車のとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

もるがはり先きあるをかまく  
しのすとらめたりすてへの程の  
ゆきうよみやくられや、まつり  
ゆきりんくのまづらのせやとみのきよ  
がうてほきにとくさすとく  
くぬはくぬこぬるをゆはく  
くぬくもくすとくせよくくく  
ゆくうきれどおののせあた牛  
ええれれ參役やうとくとくとく  
モのほとくわくわくうきのじひりやく

とくゆるうのひのれいふこと  
ゆくくよとくこくとくめア事ねは  
にくつきくとも





